
F D 活動報告書

(2012 - 2013 年度)

鹿児島女子短期大学



— 目 次 —

1. はじめに	…	1
2. 学生による授業評価	…	1
3. 授業公開	…	9
4. F D 講演会・研修会	…	12
5. 外部 F D 研修会参加	…	26
6. おわりに	…	29

1 はじめに

本報告書は、最近 2 年間の FD 活動の記録である。ここに記録された学生による授業評価、授業公開、FD 講演会・研修会、外部 FD 研修会という 4 つの活動は、現在、本学の FD 活動としてしっかりと定着している。そのこと自体は、本学 FD 活動の模索の一応の帰着点として評価されてよい。

しかしまた、いわゆるマンネリ化の問題も生じており、諸活動の効果については、客観的データに基づいてよく吟味し、必要な改善策をとるべき時期に来ていることも確かである。本報告がそのような吟味に供され、FD 活動の飛躍と発展につながることを期待される。

2 学生による授業評価

<授業評価アンケート実施内容>

年度	学期	専任教員数	(単位：名)				
			実施教員数 (専任)	非常勤 教員数	実施教員数 (非常勤)	授業改善書 提出教員数 (専任)	授業改善書 提出教員数 (非常勤)
平成 24 年度	前期	49	38 (77.6%)	46	未実施	32 (84.2%)	未実施
	後期	49	40 (81.6%)	55	16 (29.1%)	37 (92.5%)	9 (56.3%)
平成 25 年度	前期	48	42 (87.5%)	39	18 (46.2%)	38 (90.5%)	17 (94.4%)
	後期	48	46 (95.8%)	51	26 (51.0%)	43 (93.5%)	18 (69.2%)

◆授業評価依頼文書① (例示：平成 25 年度後期：中間アンケート)

点検・評価委員会

「授業に関する中間アンケート」の実施について

FD 活動の一環として、本年度も「授業に関する中間アンケート」を行っていただきます。アンケート内容は各自で分析の上、必要ならば学期内に早急に対応してください。

平成 25 年度後期は、下記の要領で、原則として全教員が実施してください。宜しくお願いします。

記

実施時期：3～5 回目の授業を目安とする（15 回講義の場合）

実施科目：学期末にアンケートを実施する予定の科目を含む（各自 1 科目 1 授業以上）

*後期に講義科目がない方は、試験的に、実技科目・演習科目もアンケートの対象としていただきますので、どうぞご協力下さい。（学期末のアンケートについても同様です。）

方法：①各教員は、中間アンケート用紙を授業中に配布し、学生に記入させ、回収する。アンケート用紙は点検・評価委員会で用意したもの（事務室出勤簿横に設置）を自由に使うことができるが、各教員が独自のアンケートを作成してもよい。（回収したアンケート用紙は各自で保管する。）

②教員は、アンケートに目を通し、必要に応じて早急な対応・改善を図る。

③中間アンケートの実施状況、改善点等については、学期末提出の「授業改善に向けて」の中に記載する。
以上

◆授業評価依頼文書② (例示：平成 25 年度後期：授業アンケート)

「授業についてのアンケート調査」実施要領 (平成 25 年度後期)

点検・評価委員会

1. アンケート実施期間

下記の期間に「授業についてのアンケート調査」を実施してください。

平成 26 年 1 月 6 日 (月) ～ 1 月 25 日 (土)

2. アンケート実施予定票の提出

アンケート科目は、学期中に中間アンケートを実施した科目のうちの 1 科目 (全授業) です。実技・演習科目も対象科目としていただいて結構です。

アンケート実施予定日の前日までに、下欄の予定票に記入し、切り取って点検・評価委員会のレターケースに提出してください。(moodle 等利用の場合は、その旨お書き下さい。)

3. アンケート実施手順 (*moodle 等を用いたアンケートの場合を除きます。)

①授業前に、アンケート用紙 (「授業についてのアンケート調査」) の入った封筒を事務室で受け取ってください。(封筒に科目コードが書かれています。)

②アンケート用紙を学生に配付後、黒板に科目コードと自由設定項目 20 を書いてください (追加質問がない場合は不要です)。

③15 分程度の時間を回答に充ててください。

④学生の代表に、アンケート用紙の回収にあたらせてください。重ねる順番は自由ですが、用紙の向きが合っていることを確認させてください。

⑤学生の代表に、所定の封筒に回収したアンケート用紙を入れさせてください。

⑥授業後、その封筒と余りのアンケート用紙を、出勤簿付近の所定の箱に入れてください。

4. 授業改善報告書

集計結果がまとまり次第、先生方へデータをお渡しします。それに基づいて「授業改善に向けて」(授業改善報告書) をご提出いただきますので、よろしくお願いたします。

切り取り線

平成 25 年度後期

アンケート実施予定票

氏名 _____

【実施科目】 _____ (原則として、中間アンケートを行った科目)

【実施授業時間】 (授業が複数ある場合はそれぞれ書いてください。)

受講者数

J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ()
 J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ()
 J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ()
 J・S・C 年 組 月 日 曜日 ・ 時限 ()

◆授業評価アンケート用紙

授業についてのアンケート調査

鹿児島女子短期大学

このアンケートは、授業の質を向上させるために実施されています。質問項目には答えにくい項目はありますが、ご協力をお願いします。

(a) 学号・氏名等を入力してください

(J . S . C) 年 組 番 氏名:

(b) 実施日と科目名を入力してください

実施日	月	日
科目名		

(c) 学年をマークしてください

① 1年生
② 2年生
③ 上級生

(d) 科目番号を入力し、マークしてください

科目番号

①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮
⑯	⑰	⑱
⑲	⑳	㉑
㉒	㉓	㉔
㉕	㉖	㉗
㉘	㉙	㉚
㉛	㉜	㉝
㉞	㉟	㊱
㊲	㊳	㊴
㊵	㊶	㊷
㊸	㊹	㊺

(e) 出席番号をマークしてください

①番～⑩番までは、十の位を「0」にマーク

①	②
③	④
⑤	⑥
⑦	⑧
⑨	⑩
⑪	⑫
⑬	⑭
⑮	⑯
⑰	⑱
⑲	⑳
㉑	㉒
㉓	㉔
㉕	㉖
㉗	㉘
㉙	㉚
㉛	㉜
㉝	㉞
㉟	㊱
㊲	㊳
㊴	㊵
㊶	㊷
㊸	㊹
㊺	その他

(f) 組をマークしてください

① 1組
② 2組
③ 3組
④ 4組
⑤ 5組
⑥ 6組
⑦ その他

(g) 学科をマークしてください

① 児童教育学科
② 生活科学科
③ 教育学科
④ 上級生

A 次の質問について①～⑤までの段階で最も近いと思われる数字を選び、マークしてください

(1) あなたは授業を初回欠席(公文も含む)しましたか。	欠席し 1回 2回 3回 4回以上	① ② ③ ④ ⑤
(2) あなたは「講義要項」をよく読みましたか。		① ② ③ ④ ⑤
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。		① ② ③ ④ ⑤
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。		① ② ③ ④ ⑤
(5) あなたの受講態度を1～5の段階で評価してください。		① ② ③ ④ ⑤
(6) 授業は「講義要項」に沿って行われましたか。		① ② ③ ④ ⑤
(7) 授業はよく準備されていましたか。		① ② ③ ④ ⑤
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。		① ② ③ ④ ⑤
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。		① ② ③ ④ ⑤
(10) 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。		① ② ③ ④ ⑤
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。		① ② ③ ④ ⑤
(12) 教員の声は十分に大きく、明確な話し方でしたか。		① ② ③ ④ ⑤

用紙の向きを揃えて回収
折り曲げ厳禁

1. 1～14のQRコードはマークしてください。
2. マークの際は、紙の裏面にマークをしないようにしてください。
3. 回収する際は、紙の裏面にマークをしないようにしてください。

(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用紙の向きは適切でしたか。	① ② ③ ④ ⑤
(14) 始業・終業時間を告知、時間配分は適切でしたか。	① ② ③ ④ ⑤
(15) 教員の態度を感心しましたか。	① ② ③ ④ ⑤
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。	① ② ③ ④ ⑤
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。	① ② ③ ④ ⑤
(18) この授業によって、教員の態度、施設などは適切でしたか。	① ② ③ ④ ⑤
(19) この授業を総合的に1～5の段階で評価してください。	① ② ③ ④ ⑤
(20) 教員が紙書する質問に答えてください。出されない場合もあります。	① ② ③ ④ ⑤

B 以下の質問について自由に答えしてください

(21) この授業でよかったと思う点を書いてください

(22) この授業でよくなかったと思う点、改善すべきだと思う点を書いてください

(23) この授業について、教室、施設、設備も含め、不満・要望・その他があれば書いてください

◆「授業改善に向けて」用紙

「授業改善に向けて」

作成年月日	年 月 日
授業科目名(受講者数)	() 名
担当教員名(所属)	()
①当該授業開始前の教育上の目標・配慮	
②授業に関する中間アンケートの分析	③中間アンケートを受けての改善内容
④学期末授業評価の分析	⑤次年度へ向けての改善目標・改善内容

※複数開講科目の場合、受講者数は授業ごとに個別に人数を記してください(例:「95+110名」)。
 ※②と③の分析は、学生による授業評価を総合的に振り返ってください。学生からの質問の代表的なものに対して、具体的にお答えいただいても結構です。
 ※中間アンケートについては、実施された方はご記入ください。実施されなかった方は、「実施せず」とご記入ください。

◆集計結果（平成24年度前期：全体）

平成24年度 前期実施										
「学生による授業評価アンケート」集計結果(全体)										
質問項目	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	標準偏差		
	0	1	2	3	4				5	
(1) あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	73.6%	17.2%	5.8%	2.4%	1.1%	3439	0.4	0.8		
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。		8.3%	33.6%	41.1%	12.6%	4.3%	3448	2.7	0.9	
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。		11.7%	32.6%	40.0%	12.4%	3.3%	3440	2.6	1.0	
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。		1.9%	11.0%	35.9%	37.2%	14.0%	3445	3.5	0.9	
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。		0.2%	4.4%	36.5%	44.6%	14.3%	3447	3.7	0.8	
(6) 授業は『講義要項』に沿って行われましたか。		0.3%	3.7%	40.4%	36.7%	18.9%	3447	3.7	0.8	
(7) 授業はよく準備されていましたか。		0.4%	2.1%	19.5%	37.1%	40.9%	3447	4.2	0.8	
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。		0.6%	4.2%	26.1%	36.1%	32.9%	3447	4.0	0.9	
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。		1.2%	5.8%	20.7%	33.9%	38.4%	3444	4.0	1.0	
(10) 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。		1.9%	6.8%	22.5%	32.0%	36.8%	3447	3.9	1.0	
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。		1.6%	7.7%	28.8%	32.0%	29.9%	3446	3.8	1.0	
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。		1.2%	4.5%	17.5%	30.7%	46.1%	3446	4.2	0.9	
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。		0.7%	5.2%	25.8%	33.6%	34.7%	3449	4.0	0.9	
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。		0.4%	2.7%	19.9%	35.7%	41.3%	3450	4.1	0.9	
(15) 教員の熱意を感じましたか。		0.4%	1.9%	16.7%	32.7%	48.4%	3449	4.3	0.8	
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。		0.3%	1.2%	16.4%	29.0%	53.1%	3448	4.3	0.8	
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。		0.5%	2.9%	19.7%	35.0%	41.9%	3450	4.1	0.9	
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。		0.7%	2.9%	20.5%	34.5%	41.4%	3442	4.1	0.9	
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。		0.5%	2.6%	18.1%	42.1%	36.7%	3445	4.1	0.8	

※下線は各質問項目において最も回答者が多かった選択肢です。
 ※「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。
 ※「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。

◆集計結果（平成24年度後期：全体）

平成24年度 後期実施										
「学生による授業評価アンケート」集計結果(全体)										
質問項目	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	標準偏差		
	0	1	2	3	4				5	
(1) あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	64.7%	19.1%	9.5%	4.5%	2.2%	3706	0.6	1.0		
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。		11.3%	35.9%	38.4%	10.8%	3.6%	3712	2.6	0.9	
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。		9.5%	31.7%	41.8%	14.3%	2.6%	3716	2.7	0.9	
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。		0.8%	7.8%	39.8%	40.0%	11.6%	3714	3.5	0.8	
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。		0.3%	3.5%	39.4%	44.4%	12.4%	3714	3.6	0.8	
(6) 授業は『講義要項』に沿って行われましたか。		0.3%	2.9%	41.2%	38.3%	17.3%	3713	3.7	0.8	
(7) 授業はよく準備されていましたか。		0.1%	1.7%	19.6%	39.7%	39.0%	3714	4.2	0.8	
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。		0.2%	3.4%	23.9%	39.1%	33.5%	3714	4.0	0.9	
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。		0.7%	4.0%	22.1%	38.8%	34.5%	3713	4.0	0.9	
(10) 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。		0.6%	4.6%	23.8%	39.8%	31.3%	3713	4.0	0.9	
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。		1.1%	6.2%	28.8%	35.4%	28.6%	3716	3.8	0.9	
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。		0.5%	3.3%	17.7%	34.2%	44.3%	3715	4.2	0.9	
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。		0.8%	4.0%	27.9%	36.2%	31.1%	3715	3.9	0.9	
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。		0.4%	2.3%	21.2%	36.7%	39.5%	3716	4.1	0.8	
(15) 教員の熱意を感じましたか。		0.3%	1.6%	17.1%	36.6%	44.4%	3711	4.2	0.8	
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。		0.2%	1.2%	16.9%	33.7%	48.0%	3717	4.3	0.8	
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。		0.4%	1.8%	21.2%	37.5%	39.1%	3713	4.1	0.8	
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。		0.2%	1.7%	20.9%	38.9%	38.3%	3713	4.1	0.8	
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。		0.2%	1.1%	18.3%	46.4%	33.9%	3707	4.1	0.8	

※下線は各質問項目において最も回答者が多かった選択肢です。
 ※「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。
 ※「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。

◆集計結果（平成 25 年度前期：全体）

平成25年度 前期実施										
「学生による授業評価アンケート」集計結果(全体)										
質問項目	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	標準偏差		
	0	1	2	3	4				5	
(1) あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	70.7%	18.7%	6.6%	2.8%	1.1%	5256	0.4	0.8		
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。		8.3%	35.7%	41.7%	10.9%	5271	2.7	0.9		
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。		8.2%	31.6%	41.3%	14.5%	5268	2.8	0.9		
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。		1.4%	11.5%	40.6%	34.6%	5271	3.4	0.9		
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。		0.2%	3.8%	39.2%	43.6%	5277	3.7	0.8		
(6) 授業は『講義要項』に沿って行われましたか。		0.6%	4.9%	43.6%	34.6%	5270	3.6	0.8		
(7) 授業はよく準備されていましたか。		0.6%	3.9%	24.2%	37.1%	5275	4.0	0.9		
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。		0.8%	6.0%	28.6%	36.1%	5275	3.9	0.9		
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。		1.6%	7.8%	26.0%	35.4%	5275	3.8	1.0		
(10) 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。		1.6%	7.3%	28.9%	35.5%	5272	3.8	1.0		
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。		1.8%	8.0%	32.6%	33.9%	5276	3.7	1.0		
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。		0.7%	4.7%	22.1%	34.5%	5275	4.0	0.9		
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。		1.3%	7.9%	32.0%	33.6%	5275	3.7	1.0		
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。		1.1%	4.6%	26.0%	36.5%	5278	3.9	0.9		
(15) 教員の熱意を感じましたか。		0.6%	3.0%	22.9%	36.1%	5275	4.1	0.9		
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。		0.5%	2.1%	22.3%	33.6%	5271	4.1	0.9		
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。		0.8%	3.8%	26.6%	35.4%	5277	4.0	0.9		
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。		0.7%	3.8%	25.3%	36.7%	5272	4.0	0.9		
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。		0.5%	3.0%	23.4%	45.3%	5267	4.0	0.8		

※下線は各質問項目において最も回答者が多かった選択肢です。
 ※「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。
 ※「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。

◆集計結果（平成 25 年度後期：全体）

平成25年度 後期実施										
「学生による授業評価アンケート」集計結果(全体)										
質問項目	各選択肢の回答率(%)					度数	平均値	標準偏差		
	0	1	2	3	4				5	
(1) あなたは授業を何回欠席（公欠も含む）しましたか。	58.5%	22.4%	11.8%	5.0%	2.3%	4891	0.7	1.0		
(2) あなたは『講義要項』をよく読みましたか。		10.4%	34.3%	40.2%	11.4%	4891	2.6	0.9		
(3) あなたは予習や復習を十分にしましたか。		8.2%	27.0%	44.3%	16.7%	4887	2.8	0.9		
(4) あなたは授業の内容を理解することができましたか。		1.3%	8.9%	38.5%	37.7%	4892	3.5	0.9		
(5) あなたの受講態度を1～5の5段階で評価してください。		0.2%	3.8%	35.7%	44.8%	4894	3.7	0.8		
(6) 授業は『講義要項』に沿って行われましたか。		0.9%	3.6%	40.5%	35.8%	4893	3.7	0.9		
(7) 授業はよく準備されていましたか。		0.4%	2.2%	23.3%	36.6%	4896	4.1	0.9		
(8) 毎回の授業の目標は明確になっていましたか。		0.4%	3.4%	26.0%	37.0%	4895	4.0	0.9		
(9) 教員の説明はわかりやすかったですか。		1.5%	5.4%	24.5%	36.6%	4894	3.9	1.0		
(10) 発見や感動などがあり、興味の持てる授業でしたか。		1.4%	5.5%	27.0%	36.0%	4895	3.9	1.0		
(11) 教員と学生の間にやりとりがあるなど、授業に活気がありましたか。		1.1%	5.8%	27.8%	35.8%	4897	3.9	0.9		
(12) 教員の声は十分に大きく、明瞭な話し方でしたか。		0.6%	3.6%	20.8%	34.3%	4895	4.1	0.9		
(13) 板書の仕方、パワーポイントの表示の仕方、プリントの用い方は適切でしたか。		1.4%	6.1%	32.8%	33.9%	4896	3.8	0.9		
(14) 始業・終業時間を含め、時間配分は適切でしたか。		0.6%	3.1%	25.3%	35.8%	4898	4.0	0.9		
(15) 教員の熱意を感じましたか。		0.4%	2.0%	21.7%	35.7%	4897	4.1	0.8		
(16) 教員は、学生に公平に接していましたか。		0.4%	2.2%	22.1%	32.9%	4896	4.1	0.9		
(17) テキスト、ビデオ、プリント資料などの教材は理解の助けになりましたか。		0.9%	3.0%	27.6%	35.2%	4892	4.0	0.9		
(18) この授業にとって、教室の環境、設備などは適切でしたか。		0.2%	2.4%	24.4%	35.6%	4895	4.1	0.9		
(19) この授業を総合的に1～5の5段階で評価してください。		0.4%	2.0%	21.9%	45.2%	4891	4.0	0.8		

※下線は各質問項目において最も回答者が多かった選択肢です。
 ※「度数」とは、各質問項目の有効回答者数です。
 ※「標準偏差」とは、データ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。

◆授業評価について（まとめ）

中間アンケートの結果による授業の即時改善と、期末アンケートの結果による、次年度に向けての改善報告書という形が、ここ数年で定着した観がある。しかし、実施率と報告書提出率を見ると、なお万全とは言えない。また、改善内容についても自助努力に任せており、全体的なチェックの方法やアンケート結果の公表方法など、検討すべき点も多い。学生による授業評価が、教員の授業改善に一定の効果をもたらしていることは確かであるが、今後はさらに、授業改善が学習成果の達成に及ぼす効果について、チェックする方法を導入する必要がある。この点については、IR委員会等での検討が始まっているところである。

3 授業公開

＜授業公開週間実施内容＞

(単位：名)

年度	実施期間	参観科目数	専任教員数	授業参観記録提出教員数	備考① (教員内訳)	備考② (科目数内訳)
平成24年度	平成24年 10月9日(火) ～19日(金)	25	49	25	児童教育：6/21名 生活：11/18名 教養：7/10名 非常勤：1名	
平成25年度	平成25年 10月7日(月) ～18日(金)	22	48	28	児童教育：9/21名 生活：13/18名 教養：6/9名 非常勤：0名	2名参観：5科目 1名参観：17科目

◆授業公開週間について（例示：平成25年度）

授業公開週間について

点検・評価委員会

- 期 日： 10月7日(月)～10月18日(金)
- 目 的 授業を他教員に参観されることや他教員の授業を参観することにより、自身の授業の現状を振り返り、授業内容・方法等の改善を図る。
- 方 法 **本学の全教員が、上記期間中に、最低1つの授業を参観し、「授業参観記録」を提出する。**
事前に「**授業公開週間日程表**」を掲示しておくので、授業担当者は、早めに休講の情報や参観条件を記入する。
参観者は、参観予定授業の所定欄に、氏名を記入しておくことが望ましい。
参観後、参観者は事務室設置の「**授業参観記録**」用紙に感想を書き、点検・評価委員会のレターケースに提出する。
提出された記録は、後日、点検・評価委員会より授業担当者に渡すことになっている。
本年度も非常勤講師にも授業公開週間について周知し、参観を促す。

平成25年度 授業参観記録(sample)

科目名	担当者			先生
参観日時	10月 日 ()	1・2	3・4	5・6 7・8 9・10 限目
記入者	児童教育学科	生活科学科	教養学科	
	非常勤講師	事務職員	その他 ()	
氏名				
授業についての感想				

◆授業公開について（時間割確認のお知らせ）（例示：平成25年度）

点検評価委員会より授業公開についてお知らせ

授業公開週間(10/7～10/18)の時間割が出勤簿横にあります。各学科の時間割、次の点をご確認の上必要事項を記入してください。

- ①休講・時間割変更・教室変更の有無
※10/2 現在までわかっている休講・教室変更については記載しています。
- ②授業参観者の名前
※参観したい授業の欄に朱ペンにて名前を入れて下さい。

10月3日
(点検・評価委員会)

◆授業公開実施報告（平成24年度）

授業公開週間について

点検・評価委員会

授業公開週間の報告

○実施期日：10月9日(火)～10月19日(金)

○方 法：期間中に最低1授業を参観し、授業参観記録を点検・評価委員会に提出する。
授業参観記録は、委員会より授業者に配布する。

○結 果：提出された授業参観記録 25

- ・児童教育学科 6/21、生活科学科 11/18、教養学科 7/10、非常勤 1
- ・専門分野に限定せず、授業の進め方で工夫されている点、学生への興味の引き方等、自らの授業へフィードバックする点がないかという観点で参観をされている教員が多く見受けられた。
- ・非常勤講師の参加も1名ではあったが実現した。
- ・思うように参観時間を確保できない教員へ、どのような形式であれば参観可能か授業公開週間のあり方を含め再考していくことが来年度以降への課題。

◆授業公開実施報告（平成 25 年度）

授業公開週間について

点検・評価委員会

授業公開週間の報告

- 実施期日：10月7日（月）～10月18日（金）
- 方 法：期間中に最低1授業を参観し、授業参観記録を点検・評価委員会に提出する。
授業参観記録は、委員会より授業者に配布する。
- 結 果：提出された授業参観記録 28
 - ・児童教育学科 9/21、生活科学科 13/18、教養学科 6/9、非常勤 0
 - ・学生の興味の惹き方、理解を深める手法に着目しつつ、自らの講義へどのようにフィードバックしていくかを考えながら参観する教員が多かった。数年前の授業参観より、そのような観点を持ちながら参観する者が増えたことは、本来の公開の意図と合致するものであり、教員の授業公開への認識が良い方向へ向かっていることの証であろう。
 - ・思うように参観時間を確保できない教員もいるので、その点をどのように改善するかが今後の問題点である。これは前年度の課題でもあったが、本年度の実施に先立って十分に検討できなかった。来年度は予め対策を講じたい。

授業参観された科目の一覧と参観人数

2名参加	1名参加
保育内容(表現III)	児童家庭福祉
保育者論	家族支援論
教育原理	保育相談支援
公衆栄養学	相談援助
住まいと環境	分子からみた生物
	看護実習
	教育実践演習
	生活支援ん技術D
	給食実務演習
	介護総合演習IV
	病理学
	教育心理学
	保育指導法の研究
	情報サービス演習II
	情報メディアの活用
	秘書実務
	外国語活動に関する指導法

◆授業公開について（まとめ）

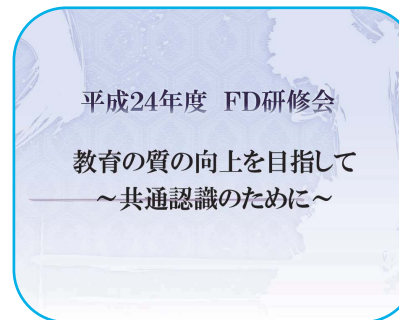
授業公開は、年間スケジュールの中に定着してきた一方で、実施率も当初より下がってきている。これには教員の時間的余裕の問題もあるが、結局は一人ひとりの自覚の問題である。アンケート等に基づき、実施時期・期間、実証方法などを再検討し、互いの授業を見て意見を述べ合うことで、いっそう本学の授業改善が進むことを期待したい。

4 FD講演会・研修会

<FD講演会・研修会内容>

平成 24 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT研修会「タブレット学習システム研修会(第1回)」 平成24年12月7日(金) 15:00～ (本館309号室) (講師:シャープシステムプロダクト株式会社 担当者) ・FD研修会「教育の質の向上を目指して～共通認識のために～」 平成25年2月28日(木) 13:00～15:00 (本館402号室) (講師:村若修教授・大重康雄教授 横峯孝昭講師・内田豊海講師 坪井敏純教授・倉重加代准教授・小松恵理子教授) 本学参加者:52名
	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT研修会「タブレット学習システム研修会(第2回)」 平成25年9月5日(木) 13:30～ (本館309号室) (講師:シャープシステムプロダクト株式会社 担当者) ・FD講演会「アクティブ・ラーニングの実践について」 平成26年2月20日(木) 13:00～14:30 (本館402号室) (講師:北九州市立大学 キャリアセンター 准教授 見館好隆氏 本学参加者:53名/志学館大学:7名(合計:60名))
平成 25 年 度	<ul style="list-style-type: none"> ・FD研修会「第19回FDフォーラム報告・ ワークショップ: [よい授業ってどんな授業だろうーうまくいく時といかない時ー]」 平成26年3月6日(木) 15:00～17:00 (東館201号室) (講師:坪井敏純教授・住澤知之教授・内田豊海講師) 本学参加者:45名

◆平成25年2月28日(木)「FD研修会」





鹿児島女子短期大学
平成24年度 FD研修会

**教育の質保証とPDCAサイクル
～学習成果を中心に～**

平成25年2月28日
倉重加代(点検・評価委員)



教養教育について

鹿児島女子短期大学の
教養教育の方向性を探る




平成24年度FD研修会

平成25年2月28日(木) 13:00-15:00

第18回 FDフォーラム 参加報告 第2分科会
「キャリア教育の現状と課題」
報告者：大重康雄

◆2012年度FD研修会揭示(内容)



第18回 FDフォーラム

「成績評価」から見る大学教育

平成24年度FD研修会

◇テーマ 教育の質の向上を目指して
～共通認識のために～

◇期日 2月28日(木) 13:00～15:00

◇場所 本館 402号室

◇FD研修会プログラム(敬称略)

① 18回FDフォーラム報告	点検・評価委員会	村若 修	大重康雄
		横峯孝昭	内田豊海
② 短期大学における教養教育	教養委員会		坪井敏純
③ 教育の質保証とPDCAサイクル	点検・評価委員会		倉重加代
	学長補佐(教務担当)		小松恵理子

* 今回のFD研修会は、当初、本学の「教養教育」をテーマとして企画していましたが、より幅広く、本学の「教育の質」を高めるための研修会として企画し直しました。ご了承いただき、奮ってご参加下さいませようお願いします。

** なお、研修会の最後に、FD研修会に関するアンケートを取らせていただきます。集計結果は、後日教授会でご報告します。

◆2012年度FD研修会アンケート用紙

平成24年度FD研修会 アンケート

①本日の研修で得た知見や気づき、感想等ありましたら、何でもお書き下さい。

②発表者へ質問したい事項がありましたら、ご記入下さい。

③今後、FD研修等で取り上げてほしい議題がありましたら、あげて下さい。

◆2012年度FD研修会報告

平成24年度FD研修会実施報告

点検・評価委員会

○総括

平成24年度FD研修会に際しましては、多忙な時間にもかかわらず、大勢の教員の皆様のご参加を頂き、またアンケートにもご協力いただき、ありがとうございました。ご意見やご感想を下記のとおりまとめましたのでご覧下さい。これらを参考に今後のFD研修会のあり方等を含めて議論し、本年度以降につなげていきたいと考えています。

今回初めて、教職員が外部の研修会等に参加した際の報告の場として、点検評価委員より「FDフォーラム」参加報告を行いました。概ね好評でした。今後も、研修会が多様な情報提供の場として機能するよう検討したいと思います。教養教育、学習成果に関しては、学内の共通認識を図りたいとの観点から、内容に詳しい教員に発表していただきました。アンケートのご意見の中には、さらに本学のための企画立案までしてほしいとの声もあり、FD研修会のあり方を検討する際、参考にさせて頂きたいと考えています。

○アンケートより

①本日の研修で得た知見や気づき、感想等ありましたらなんでもお書き下さい。

・各分野の先生方から、大変貴重は講話を拝聴させていただきました。どうもありがとうございました。学習評価の方法や指標は、色々ありますので、文科省や当短大の方針に従ってまいります。学生の個性や希望、又は必要性を認識して、学生の成長につながる指導ができるよう努力したいと思います。

・研修の中で、学生が学びの主体であり、成果が分かるということがポイントしてあげられるということが改めて印象深く残りました。先日定期試験（本試験の分）の結果が振るわない学生さんへなぜなのかを聞いたところ「勉強の仕方がわからない」と言われました。細かいことはわかりませんが、おそらく授業を受けていながら、成果を得ていると感じたことがなかったのかもしれない。まずはこの点から何ができるのかを考え、み直しなどを行ってみたいと思います。

・フォーラム報告、5分/人の企画は良かった。端的にまとめられていてわかりやすい内容だった。次回も期待したい。教養教育のとらえ方がより良かった気がする。また、今後の方向性も見えた感じがしました。教育の質保証とPDCAサイクル、簡潔なまとめ方と説明でわかりやすかった。

・FD研修会の報告はとてもありがたかった。続けてほしい。

・情報の洪水でおぼれている現状ですので整理してみたいと思います。これだけの労力が實際教育内容の改善、発展につなげられるか、ここ数年、疑問に思うこともあります。可能となるように考えてみたいと思います。（現実的には学生に直面してさける時間はほとんど少なくしているような気がしています。）

・単位を取るだけの授業、評価になってもいけない「甘く」なく「恐怖」でもない授業、評価、真に力をつける授業、評価、教育というものを今後も考えつけていきたいです。

・各大学におけるキャリア指導については面白かったです。本学も学生間の1、2年生の部分的な仲の良さはありますが、情報の共有などは行われていないように思えるので、チューター制などコミュニケーションが取れやすい環境作りが必要ではないかと思いました。成績評価の仕方について考えさせられた。学生にとってどのように教えれば興味を持って授業に取り組んでもらえるかを考えていきたい。教養教育の重要性を確認した。

・教養教育の流れと今後の方向性が理解できたので良かった。カリキュラムマップ作製に向けて勉強になった。

・色々な情報が得られた点では有意義だったが、さまざまなテーマを扱うのであれば、もう少し時間を取った方が良かったように思います。

・科目は教員のものではない、たしかにそうです、今一度振り返って考えてみたいと思います。この短大においてどのような教育を目指していくのか、改めて勉強させていただきました。また、坪井先生の話から、教養教育だけでなく、青年期教育を含めた短大での教育体制を考えていかなければいけないということについて、自分も何か考えていかなければいけないと感じました。

・研修、研修…と続けるだけにならないように願います。研修という既成事実で教育実践が忘れられては、馬の前に馬車をつなぐようなものですから。思い起こすのは「教養＝教育＝人間形成＝自己陶冶＝Bildung」という図式です。

・毎年FD研修会のプログラムの中に、FDフォーラムの報告を組んでほしい。小グループでテーマであった「教育の質を高める」ための具体的な対策や、日頃他の先生方が取り組まれている工夫があれば、お聞きしたり、意見交換したりする場がほしい。

・FDフォーラムについては、他大学の取り組みを知ることができたことを参加された先生方が短大での取り組み方と比較して発表して下さったことで、とてもわかりやすく、理解できました。短期大学の教養教育は背景から今後の課題まで、教養教育の短大での位置付けを理解することができました。短大ですべきこと（目指す姿）は大変参考になりました。教育の質保証PDCAサイクル短大の学習成果の考え方について再認識することができました。

◆平成 25 年 9 月 5 日 (木) 「ICT (タブレット学習システム) 研修会」

- ・「資格取得のみの目的化」の怖さは常に思っていたので、坪井先生のお話で再認識できました。
- ・各地で行われている FD は幅広い。大学の高校化? (同意)。教養教育、キャリア教育の重要性 (あらためて)。成績評価ではなく学習評価 (同意)。本学における教養教育の重要性→キャリアガイダンスの重要性、一生にわたる職業選択教育。学習成果とはその時点だけの評価でよいのか? (内田先生に同意)。勉強になりました (予想より、すみません)。カリキュラムマップ→DP 項目の明確化適切化。
- ・やや盛りだくさん過ぎる部分はあったものの、全体としては内容の濃い有意義な研修会であった。目的をはっきりさせることが重要で、その目的に沿った形で短大として取捨選択をし、メリハリをつけていく必要であるのではないかと思った。(具体的には何もしないということではできなくても、手を抜いて形だけというような部分があってもよい。その代わりこの短大としての立ち位置、考えをはっきりさせる必要はありますが)
- ・もう少し時間があればよかったかもしれません (発表者側から)
- ・予想できたことですが、報告時間ひとり 5 分という設定は無理があったと思います。今回ぐらいのボリュームなら午後 2 コマ分ぐらい時間を割いても良かったのではないのでしょうか。FD フォーラムの報告をもう少し詳しく聞きたかったです。“2 時間”と時間を決めるなら、内容をもっと絞った方がいいです。

②発表者へ質問したい事項がありましたら、ご記入下さい。

- ・坪井先生へ質問: 「保育所や幼稚園を辞めた後何をしているのか?」「アンケート等はあるか?」等を教えてください。
- 坪井先生より回答
まず、アンケート等はありません。同窓会を使って追跡調査という手順が一番良いとは思いますが、全国的には 4 年前に保育士養成協議会より 2, 5, 11 年後の現状を聞いたデータはあり、また本学の卒業生からも 50 名のデータをその協議会のデータへ入れてはあります。保育所や幼稚園を辞めた後何をしているのか、という質問に対しては、全く幼児教育と関係のない仕事をしている、もしくははしていないというわけではなく、パートなど、形態は変わるが全く辞めてしまうということはないようです。
- ・「大学らしさ」とは何でしょうかね?
- ・「その次を生きる」ことと教養との関係 (本学の教養教育は「その次」に貢献できているのか、いないのか?)

③今後、FD 研修等で取り上げてほしい議題がありましたら、あげて下さい。

- ・再就職に向けての支援や、社会人入学 (主婦や年長者など) の方の学習支援について、お願い致します。
- ・学生の学習意欲を高める教授法や学習障害の学生への学習支援
- ・発表も勉強になりますが、やはり話し合いをしたいです (教員のアクティブラーニング)、評価のあり方、学生主体の授業方法、授業検討 (研究授業) 教員を学生役にした模擬授業
- ・全体として行っていることには共感できるし、マニュアル化されているような正解があるわけではないことは承知しているのですが、具体的な実践、取り組み例があると良かったです。例えば「能動的な学び」にどうやって学生を誘導するのか、学習の動機づけを「外発的」なものからどうやって「内発的」なものにもっていけばいいのかなど
- ・学習の到達度測定と FD との関係 (…むずかしい課題です)
- ・授業評価の効果、or 有効的な活用方法について



◆「ICT (タブレット学習システム) 研修会」揭示

平成 25 年 9 月 3 日

各位

事務局長

タブレット学習システム研修会について(お知らせ)

本館 309 号室に設置してある「タブレット学習システム」について、有効活用を図るため、下記のとおり研修会を行いますので、ぜひ参加いただけますようお願いいたします。

日 時 : 平成 25 年 9 月 5 日 (木) 13:30 ~

場 所 : 本館 3 階 309 号室

◆平成 26 年 2 月 20 日 (木)「FD 講演会」

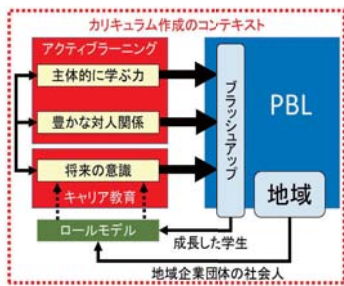


鹿児島女子短期大学・FD講演会

アクティブ・ラーニングの
実践について
(授業とPBLと、将来への接続を視座に)

北九州市立大学 キャリアセンター(地域創生学群専任)
准教授 見館好隆(みたてよしとく)
mitate@kitakyu-u.ac.jp
2014年2月20日

- 本講演のサマリー
- ・社会で働くために必要な力でも必要なのは3つ、「主体的に学ぶ力」「豊かな対人関係」「将来の意識」
 - ・そのために必要な教育手法が「アクティブラーニングとPBL」
 - ・既存の授業の中にアクティブラーニングを埋め込み、「主体的に学ぶ力」「豊かな対人関係」を身につける。
 - ・低年次でのキャリア教育で「将来の意識」を促進。
 - ・「主体的に学ぶ力」が無ければ、学生はPBLに参加しない。また、PBLは「豊かな対人関係」が必須。
 - ・そしてPBLで「将来の意識」がさらに涵養される。
 - ・PBLで成長した学生や地域の社会人が、「将来の意識」を演出する「ロールモデル」となる。
 - ・地方大学だからこそ、首都圏の大学では用意できない「地域」をPBLのフィールドとして活用すべき。



◆2013 年度 FD 講演会 掲示 (内容)

平成25年度FD講演会

◇講演題目 「アクティブラーニングについて」
◇講師 公立大学法人 北九州市立大学
准教授 見館好隆 様

◇期 日 2月20日(木) 13:00~14:30
◇場 所 本館 402号室

* 次回(3月6日(木))のFD研修会は、今回の講演会を踏まえて、実施する予定にしております。ぜひ、ご参加下さいますようお願いいたします。
** なお、研修会の最後に、FD講演会に関するアンケートを取らせていただきます。集計結果は、後日教授会でご報告します。

◆2013 年度 FD 講演会 アンケート用紙

平成 25 年度 FD 講演会 アンケート

①本日の講演で得た知見や気づき、感想等ありましたら、何でもお書き下さい。

②本学におけるアクティブ・ラーニングの可能性について、何でもお書き下さい。

◆平成 26 年 3 月 6 日（木）「FD 研修会」



授業アンケートと教育の個性化

第19回FDフォーラム



FDフォーラム

社会を
生き抜く力を
育てるために

龍谷大学 深草キャンパス
2014年 2月 22日(土)
23日(日)



FDフォーラム報告

内田豊海

鹿児島女子短期大学
FD研修
ワークショップ



◆ワークショップ用ワークシート

FD 研修ワークショップ ワークシート

自分の考える授業観 良い授業の条件とは		先生方の考える授業観 良い授業の条件とは	
問題点	改善法	問題点	改善法
これまで工夫してきた中で、共有できる点		これまで工夫してきた中で、共有できる点	
箇条書きで、具体的に記入してください			

◆2013年度FD研修会揭示(内容)

平成26年3月5日

教職員各位

平成25年度FD研修会のお知らせ

下記のとおり、FD研修会を開催いたしますので、ご出席いただきますようお願いいたします。

記

◇期 日 3月6日(木) 14:00~15:40
◇場 所 東館 201号室
◇内 容

1. 第19回FDフォーラム報告
2. ワークショップ
テーマ:「よい授業ってどんな授業だろう
ーうまくいく時といかない時ー」

研修会の最後に、FD研修会に関するアンケートを取らせていただきます。
集計結果は、後日教授会でご報告します。

◆2013年度FD研修会アンケート用紙

平成25年度FD研修会 アンケート

①本日の講演で得た知見や気づき、感想等ありましたら、何でもお書き下さい。

②本学におけるアクティブ・ラーニングの可能性について、何でもお書き下さい。

③本学におけるアクティブ・ラーニングの可能性について、何でもお書き下さい。

◆2013年度FD講演会・研修会報告

2013年度 鹿児島女子短期大学FD講演会・研修会報告

◆FD講演会「アクティブ・ラーニングの実践について」

日 時: 2014年2月20日(木) 13:00~14:30

場 所: 本館402号室にて

講 師: 見館好隆准教授(北九州市立大学キャリアセンター 地域創生学群専任)

参加者: 本学教職員53名 志学館大学出席者7名

内 容:

見館先生の授業実践を元に、アクティブ・ラーニングと用いたキャリア教育の可能性と課題について講演いただいた。質疑応答では、本音でこれまでの苦勞や課題まで語っていただき、実りの多い講演会となった。

<アンケート結果>

講演から気づきや知見

- ・学生の可能性を、教員が黒子となり、学生自身が主体的に伸ばしていく実践は参考になった。
- ・「自分の身の丈以上の経験をしないと人は成長しない」という素敵な言葉を聞くことができた。
- ・「主体的に学力」「豊かな人間性」「将来の意識」の3つが重要で、前者はアクティブ・ラーニングで、後者はキャリア教育で伸ばしていくことができることがわかった。
- ・質疑応答が面白かった。
- ・実践を実証的に研究し、効果が測定されている点が良かった。
- ・アクティブ・ラーニングを通して見える北九州大学の学生の生き生きとした意欲に驚いた。

本学における可能性

- ・自分の授業の中で取り入れるものを取り入れていきたい。
- ・席を固定しないことや、面識の薄い者同士で調べ物をさせるなど、いろいろ使えそうなアイデアを得ることができた。
- ・春のオープンキャンパスなどでの可能性。
- ・本学でもすでに行っていることはかなりあるため、それらをどう有効に結びつけていくかが課題。
- ・実習をより、PBLの取り組みとして見直していきたい。
- ・授業改善に対する教員の動機付けができていけばいい。
- ・キャリア・ガイダンスや教職実践演習のような科目で積極的に用いていってはどうか。

◆FD 研修会【FD フォーラム報告 及び 授業改善にむけてのワークショップ】

日 時：2014年3月6日（木）15：00～17：00

場 所：東館201号室にて

参加者：本学教職員45名

【FD フォーラム報告】

内 容：FD フォーラム参加者3名がそれぞれ出席した分科会の内容報告

坪井「授業アンケートと教員の個性化」

住澤「授業のパラダイムシフト」

内田「大学の授業デザイン・授業改造の新しい形」

アンケート結果

- ・他大学の様子は参考になり、学ぶことが多かった。
- ・学生を取り込むためには、授業のPDCAをしっかりと回さなければならないことを実感した。
- ・日頃感じていることと、フォーラムの報告が同じ方向を向いていることがわかってよかった。
- ・面白い企画だっただけに、もう少しゆっくりと話しを聞き、インターラクティブなものであったらよかった。

【ワークショップ「よい授業ってどんな授業だろう：うまくいく時かない時」】

内容：いくつかのグループに別れ、教員同士で、自らの授業の経験をシェアし、よい授業を行うためにはどのようなことが必要かを議論した。

アンケート結果

- ・授業に対する先生方の考えを知る良い機会となった。専門分野が違うことで、課題が異なる点もあったが、よい授業の条件については、共有する部分も多いことが見いだせた。
- ・学生を集中させるために、授業の中で驚きや関心をふんだんに盛り込まなければならず、教員がさらに勉強していくことが大切だと感じた。
- ・時間がもう少しあり、議論を深められたらよかった。
- ・他のグループの議論も聞いてみたかった。

他校での優れた実践例を聞くことで、授業の可能性を拡げた後に、本学におけるこれまでの授業経験を共有し、各教員が自分に何ができるかを考えることで、これからの授業の質を向上へ寄与できることを目的としてひらいたFD研修であったが、アンケート結果からも、実りあるものとなっていたことが伺え、今後、連続性のある研修を継続することで、授業改善に対するモチベーションの維持・向上を図っていきたい。

◆FD講演会・研修会について（まとめ）

これまで、主として毎年度末にFD講演会または研修会、あるいはその両方を実施してきた。アンケート結果を見ると概ね好評であり、教員に刺激を与えてきた点で、実施の意義は大きい。それらの実施が具体的な授業改善につながっているかどうかは、なかなか見えてこないところであるが、少なくとも、学内全体に前向きな雰囲気醸成しているようである。今後は、実施回数や実施内容を見直しながらかつて継続し、FDに関する最新情報の共有と意識の共有を促進し続けることが肝要であろう。

5 外部FD研修会参加

＜参加内容＞

平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> ・第18回FDフォーラム（主催：財団法人大学コンソーシアム京都） 平成25年2月23日（土）～2月24日（日） 於：立命館大学（京都） テーマ：「学生が主体的に学ぶ力を身につけるには」 参加者：村若修教授・大重康雄教授 横峯孝昭講師・内田豊海講師
平成25年度	<ul style="list-style-type: none"> ・第11回FDフォーラム（主催：創価大学） 平成25年12月14日（土） 於：東京都八王子市 テーマ：「アクティブ・ラーニングを支援する本学の取り組み」 「アクティブ・ラーニングを保証するカリキュラム設計」 参加者：大重康雄教授・倉重加代准教授
	<ul style="list-style-type: none"> ・第19回FDフォーラム（主催：財団法人大学コンソーシアム京都） 平成26年2月22日（土）～2月23日（日） 於：龍谷大学（京都） テーマ：「社会を生き抜く力を育てるために」 参加者：坪井敏純教授・住澤知之教授・内田豊海講師

◇参加報告（感想）

○平成25年2月（第18回FDフォーラム：村若修教授）

学内のFD研修会でもご報告させていただいたように、初日のシンポジウムは、学生の主体的学びについて、本学の実情を踏まえながら考えるよい機会になった。また、二日目の分科会では、学生による授業評価アンケートの意義と方法について新たな視点を得ることができ、今後の本学の授業評価の改善にも参考になる点が多かった。今後のFD活動に役立てていきたい。

○平成25年2月（第18回FDフォーラム：大重康雄教授）

- ・今回のFDフォーラムは、学生の主体性に関する学びをどのように支えるかが大きなテーマであった。FD等で学内の仕組み・ファンリティを作っても学生が主体的に学ぶことが出来なければ、教育の大きな目的は達成できない。今回初日のシンポジウムで主体的に学んでいるかの評価方法について「ルーブリック」という目標に準拠した評価方法の紹介があった。主に米国の大学で利用されている方法で、今後日本の大学向けにローカライズされて普及すると思われる。
- ・2日目の分科会ではキャリア教育の現状と課題について、各大学からの報告を聞いた。全体として印象に残ったのは、「対話」「学生主体」「アクティブラーニング」「課題解決型学習PBL」「グループ学習」というキーワードが頻りに使われたことである。学生自らが主体的に動き、その結果社会人基礎力を付け、職業人として巣立って行くプロセスで重要なテーマであることが理解できた。2/28木曜日、FD研修会で関連した報告をする。今後、学内のキャリア教育に活かして行きたい。

○平成 25 年 2 月（第 18 回 FD フォーラム：横 峯 孝 昭 講 師）

京都における FD 活動は活発であるということ委員会では何回か耳にしていたが、今回のフォーラムに参加させていただいてなるほどと改めてその意味がわかった。さらに、京都に限らず各大学においても FD 活動を活発に行っているという意思が参加者の教員から質疑応答を通じて感じることができ、現在の大学における FD 活動の置かれている状況の認識を行うことができた。ただ、なぜこれほど FD 活動に重きを置かねばならないのか、という点に関しては完全に私個人の意見ではあるが、大学生の教育の質の低下、それを受け止める大学がそれをどのように育てて社会へ人材を輩出していくのかという点がクローズアップされている点だと思う。教育に重きを置くのか、研究に重きを置くのか、社会への貢献に重きを置くのか、大学に求められるものの多さにうまくバランスをとっていかないと、ということを感じ知らされた。

○平成 25 年 2 月（第 18 回 FD フォーラム：内 田 豊 海 講 師）

FD の必要性を再認識するとともに、いかに現場レベル（実際の講義室の中）にまで落とし込むためには、そして、その質を上げるためには、個別の教員の努力ではなく、全学的な共通認識が必要であり、それを引っ張ることのできる、リーダーの存在が不可欠だと考える。

○平成 25 年 12 月（第 11 回創価大学 FD フォーラム：大 重 康 雄 教 授）

今回参加した FD フォーラムは、創価大学が実施している独自の FD フォーラムである。創価大学は東京都八王子に広大なキャンパスを有し、恵まれた設備が印象的であった。特に今年 9 月に完成した「中央教育棟」の規模は目を見張るものがあった。同大学設立 40 周年事業で建築された建物だが、地上 12 階地下 3 階の規模を誇る。この中の 2 階に今回フォーラムで紹介された <SPACE> Student Performance Acceleration Center [総合学習センター] がある。この設備紹介もこの FD フォーラムの特徴となっていた。自学共同学習スペースが設置されて、学生の主体的な学びを支援する工夫が随所に見られた。

後半登壇された関西国際大学の濱名学長は、以前コンソーシアム京都主催の FD フォーラムでシンポジストを務めていた人物である。自身の講演では、学生の学習効果評価に関する「ルーブリック」の使用を説明・提唱していたが、今回も一部ルーブリックの説明も含まれていた。講演では、同氏が関わっている中央教育審議会の答申大要を確認出来る内容で、認知的能力と汎用力とのバランスが、問題解決型の主体的な学びが出来る学士課程を実現させるということが、良く理解できた。現在本学でもカリキュラムマップや GPA 検討など、教育の質保障への対策を矢継ぎ早に進めているが、この FD フォーラム参加も時宜を得た機会となり、非常に勉強になった。

特に関心を持ったのは、「学修成果のとらえ方」であった。この中で特に同氏は「今後学修成果をどのように可視化していくかが重要である」としている。大学学部学科のアセスメントポリシーを確立することが特に重要としている。直接的には、外部テスト、ルーブリック、ポートフォリオ etc. 間接的には学生行動調査、学生満足度調査 etc. これらは IR (Institutional Research) の側面からも十分検討を進めていく必要がある。

○平成 25 年 12 月（第 11 回創価大学 FD フォーラム：倉 重 加 代 准 教 授）

FD フォーラムの SPACe の説明は、創価大学という大学の個性や郊外型大学ならではの取り組みの印象を受けた。ただし、その SPACe という空間の有効利用の背後に、10 年以上前から取り組んでいたアクティブ・ラーニングの成果があるような話は興味深かった。学生の学習姿勢がその大学の文化として定着するには年数を要することを実感した。本学の場合、空間整備には困難を伴うかもしれないが、学生の学習への取り組み姿勢を転換することは可能だと思われた。後半の関西国際大学学長の講演は、小規模私立大の話として、具体的な現実的な話を中心だったので、たいへん身近な話として聞くことができた。企業側の新卒者の選考方法で圧倒的に面接が重視される話や、3 つのポリシーのうち、アドミッション・ポリシーは別の質のもので、むしろ目標達成を測るアセスメント・ポリシーが必要ではないかということ、「PDCA は考えていると暗くなるので、なりたいたい自分にどうしたらなるかというポジティブ志向でありうる最高の状況づくりを共有し、能動的、主体的に、現状でうまくいっていない点を、皆の協力で問題発見、問題解決していくこと」など、事例にしても、考え方にしても後味のよい話であった。本学の改善に役立てたいと思う。

○平成 26 年 2 月（第 19 回 FD フォーラム：坪 井 敏 純 教 授）

今回は特に、学生アンケートの活用というテーマを学ぶために参加したが、その限界とともに、大学教育の活性化にもつながる方法論的な問題を興味深く学んだ。視点の転換が必要だと痛感した研修であった。

○平成 26 年 2 月（第 19 回 FD フォーラム：住 澤 知 之 教 授・内 田 豊 海 講 師）

グローバル化や情報化の進展、少子高齢化、労働市場と産業構造の流動化等の社会の急激な変化に対し、産業界や地域社会からは、このような変化に応じた大学の対応が期待されている。そのため、大学は早急に、このような変化や期待にどのように応えていくべきかを考えることが求められている。学生の「将来の予測が困難な時代を生き抜く力」を育成するために、昨今、学生が主体的に学び、考える力を身につけること、あるいは、そのためのアクティブラーニングの導入などが取りざたされているが、今回のシンポジウムでは、極めて先端的な取り組みを含めた実際の事例の紹介や、そのような取り組みを通し、浮かび上がってきた問題点や課題などが報告され、またそれに対して、熱い議論も交わされて、非常に興味深く、示唆に富んだ、有意義なフォーラムであった。

今回のフォーラムの内容については、短大でも教員で共有すべき点があるため、3 月 6 日の FD 研修会の中で、参加者による報告を行う予定である。

◆外部 FD 研修会参加について（まとめ）

例年、点検・評価委員会を中心に、複数の教員が外部 FD 研修会に参加している。その情報の学内への還元を図るため、平成 24・25 年度には FD 研修会で参加報告を行った。研修会のアンケート結果によれば概ね好評であり、外部から新たな情報を取り入れながら FD 活動を推進していくことの重要性が窺える。

6 おわりに

平成 11 年に教務委員会内に FD 小委員会が設置されて以来、本学の FD 活動も少しずつ形を変えながら充実・発展してきた。そして今、本学の FD 活動も転機を迎えようとしている。学習成果の観点から、学生が主体的に学習の自己管理を行うことが重要視される中、FD 活動も教員中心ではなく、学生中心に捉え直される必要が生じている。つまり、学生が自分の受けた授業についてどのように自己評価しているかを教員が知り、その情報を踏まえたうえで、学生の学習成果達成のためにどのように授業を構成するべきかを考えていくようなシステムが要請されているのである。このようなシステムの中で、これまで実施してきた FD 活動は新たな位置づけを得ることになる。議論は始まったばかりであるが、本報告書がその議論の一助となることを願っている。

「鹿児島女子短期大学 FD 活動報告書」
(2012-2013 年度版)

鹿児島女子短期大学 点検・評価委員会
(2014 年 5 月発行)